

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
第20号
2018(平成30)年8月26日
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

綿の花の日内変化 — はじめて気づいたこと —

夏休みを利用して、綿の花の日内変化を観察し、記録してみることになりました。8月14日(火)の午前6時から夕方18時までの12時間にわたって、1時間ごとに花の様子を確認し、写真に収めました。

対象として選んだ花は和綿が3つ(整理番号0~2)、洋綿が4つ(整理番号3~6)です。和綿には主枝が茶色で花に底紅があるタイプと、主枝が黄緑色で花に底紅がないタイプがあります。前者を赤木または赤綿、後者を青木または青綿と呼ぶことがあります。ちなみに、粥を炊いて一年の農作物の豊凶を占う農耕儀礼(予祝儀礼)の一つに粥占神事(かゆうらしんじ)がありますが、大阪府東大阪市にある河内国一之宮枚岡神社に伝わる粥占神事(毎年1月11日)の占記リストにみえる「あかわた」「あをわた」はこれに当たると考えられます。(岡田清一「粥占神事—恩智神社と枚岡神社の事例から—」八尾市立歴史民俗資料館『研究紀要』第26号10頁参照)

以下に、綿の花の日内変化の様子を報告します。最初に、参考までに当日の「奈良」の気象データを気象庁のHPより、日の出日の入り時刻を国立天文台のHPより掲げておきます。

8月14日(火)。天気：晴れ時々薄曇り。最高気温：36.3℃。最低気温：26.0℃。平均湿度：68%。

日の出は 5:16。日の入りは 18:46。

午前6時の段階では和洋ともにまだ花弁はほとんど閉じていましたが7時頃になって少しずつ開きはじめ、8時の段階で「8割方開く」という感じになりました。和綿は下を向いて花が開き、洋綿は上を向いて花を開きます。これは実(コットンボール)の付き方と同じです。

花弁が全開になるのは10時から11時頃です。つまり、綿の花の一番の見頃はこの時間帯とも言えます。午前11時計測の花弁の直径は和綿0番4.5cm、1番5.0cm、2番5.0cm、洋綿3番6.2cm、4番5.5cm、5番5.5cm、6番7.0cmでした。全体にやや小ぶりです。

13時頃から洋綿の花弁の先端が赤味を帯び始めます。和綿赤木も色づきはじめますが、洋綿の方がその傾向は顕著です。和綿青木の花弁には変化はみられません。洋綿は14時頃から少しずつ花がしぼみはじめます。洋綿は和綿に比して速くしぼんでいきます。16時頃には洋綿はほとんど閉じてしましますが、和綿は17時頃になってようやくしぼみはじめる、という感じです。和綿青木は観察終了の18時になってまだまだ半開きの状態でした。今回の観察ではじめて気づいたことは、和綿青木の花弁は夕方になってもまったく赤味を帯びない、ということでした。



和綿青木2番6:00撮影



和綿赤木1番 11:00撮影



洋綿4番 18:00撮影

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 平成30年7月24日~平成30年8月23日)

京都府1、香川県1

【H.A.M.A.木綿庵】(平成30年7月24日~平成30年8月23日)

メールを含む各種相談件数2、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数1件2名



【ワークショップ】 — たぬきの糸車と糸つむぎ — を担当

平成30年8月12日（日）午後2時00分～3時30分 天理駅前コフ
フン南団体待合室にて開催

今回は、「ヤマト・天理の歴史文化をめぐる」プロジェクト（文化庁支援事業、地域と共働した美術館・博物館創造活動）の一環として行われた「駅前出前博物館」の第1回プログラムとして企画されたものです。事業主体（中核館）は天理大学附属天理参考館。

天理市ボランティアガイド協会の方による「山辺の道」案内のミニトークにひきつづき、14:00～15:30の90分間。小学生のこどもさんにもご参加いただき、無事に終わることができました。

今回は特に、「じんき」とスピンドルのセットをみなさんにお配りして、綿繰り、綿打ちの後はおもにスピンドルを用いての糸紡ぎに取り組んでいただきました。ご参加くださいましたみなさん、ほんとうにありがとうございました。



〈信州大学繊維学部（長野県上田市）の圃場・綿畑を見学〉平成30年8月22日

日本の大学で唯一、繊維学部を有する信州大学では繊維素材の研究と保存を目的に、構内の圃場において毎年約30種類の綿を栽培し、種（タネ）の保存に取り組んでおられます。今回は技術部専門職員、構内農場業務主任の茅野誠司氏に綿畑を案内していただき、栽培方法や種の保存の取り組みについてご説明をいただきました。

〈自宅織機作品番号3 — コースター用布を織り上げる —〉平成30年8月19日

整経から機掛けまでを復習する意味を兼ねて、経糸の本数が比較的少ないコースター用布の製作に取りかかりました。整経作業は2月12日。織り上げは8月19日。整経長442.0cm。整経重102.0g

※経緯糸ともに20/3の紡績糸。経糸数216本。双羽。経糸は紺、朱の2色。緯糸は紺、朱、黄、緑、水色の5色。織幅12.0cm、布丈307.0cm。

《綿の栽培記録 2018》 — 平成30年度版 その4 —

8月 1日（水） 今季2回目の農薬散布を行う。開花最盛期に入る。

8月10日（金） 今季初めての灌水を行う。約2週間降雨なし。

8月14日（火） 和綿の開絮を確認。初収穫を行う。



【綿の加工の作業記録】（梅田1人の作業量）

・糸車を用いての糸紡ぎ量（和綿：平成28年, 2016産。丹羽正行氏による打ち綿）

7月24日～8月23日（作業実日数16日） 糸の総量78.0g（20.8匁） 総時間147分（2時間27分）

※1分間≒0.531g 1時間≒31.9g（8.5匁）

【研修等の記録】

・平成30年8月12日 天理駅前コフフン南団体待合室にて「駅前出前博物館」ワークショップ担当

・平成30年8月22日 信州大学繊維学部（長野県上田市）を訪ね、綿種の品種保存の様子を見学

【以下の写真は、左：信州大学繊維学部圃場の綿畑、中：収穫した和綿の実綿、右：コースター用布です】

